

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和 2 年 1 月 31 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3470202239		
法人名	医療法人光臨会		
事業所名	あんしんホーム		
所在地	広島市西区庚午中二丁目11番15号 (電話) 082-507-6600		
自己評価作成日	令和2年1月6日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3470202239-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	令和2年1月29日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

<p>医療法人が営むグループホームであり、二次救急医療機関である系列の荒木脳神経外科病院のバックアップを受けて健康管理や体調不良時の対応などでは、特に信頼をいただいています。</p> <p>日々の生活では、活動性を重んじながら楽しみ、喜びの多い生活の提供を心がけており、中でも外出行事は頻繁に行い、力を入れています。例えば、初詣、お花見、水族館鑑賞、美術館鑑賞、マジックショー鑑賞、広島城大菊花展、ドリミネーション鑑賞などなど、入居者さまの希望に応じて、沢山の楽しみを実現することができました。また毎日の散歩や、ちょっとした外食やカフェなどにも出かけています。</p> <p>昨年は、数名の方のお看取りをさせていただきました。ご家族様の気持ちに寄り添い、共に最期の旅立ちの援助をさせて頂けたことは、日頃からご家族との関係構築ができていたからであると感じています。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<ul style="list-style-type: none">・地域との繋がりを深める取り組みとして、「地域の敬老会イベント」に施設を会場として提供し、職員は綿菓子の店を出店し、利用者と共に地域住民と交流している。・利用者が楽しんで生活できるように水族館・美術館への外出行事を企画し実施している。・看護師を配置して利用者の健康管理を行い、体調不良時には母体の医療機関と連携して対応している。また、家族の要望を確認して看取りを行う際には、看護師が必要に応じて夜間対応を行い、介護職員が安心して業務を行えるように指導している。・夜間の緊急事態に対応できるように、夜勤者以外に夜間緊急対応当番を配置している。・施設内を清潔に保つよう取り組み、職員は消毒薬を常時携帯して対応している。・職員の要望を反映した勤務シフトを実施して働きやすい環境づくりに取り組んでいる。
--

自己評価	外部評価	項目(2階ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	毎朝の朝礼にて理念の唱和を入居者とともにやっている。また全体ミーティングでの事業計画振り返りや計画説明時に理念を交えた話をしている。	法人・関連事業部の基本理念の下に事業所理念があり、朝礼で利用者と一緒に唱和している。事業所の年間事業計画を立て実施し、半期ごとに評価している。今年度は事業所理念の「安心と信頼」に向けて、職員教育に取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	町内会行事への参加だけでなく、事業所の敷地を利用して町内の祭りの開催や、神輿の休憩所として利用していただいている。また近隣中学の職場体験実習の受け入れを毎年実施している。しかし入居者が日常的に近隣住民と交流の機会をもつことは少なく課題である。	町内会行事の餅つき・運動会・秋祭りに利用者が参加し、地域住民と交流している。「地域の敬老の会イベント」に施設を会場として提供し、綿菓子の店を出店して地域住民と交流している。秋祭りの神輿の休憩場所としても施設を提供している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	管理者が理学療法士であり、地域包括支援センターと協力して介護予防拠点整備促進事業に参加している。その中で、住民に向け認知症について話をする機会をもっている。認知症アドバイザーとして活動希望はあるが、広島市のアドバイザー養成講座開催が未定である。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営状況の報告、行事等の取り組み紹介を中心に、出席者から諸々の意見聴取を行っている。 町内会長にも出席していただくことで、災害時対応についての検討や、町内会行事への参加や協力に繋がっている。	運営推進会議には利用者・家族代表・地域包括支援センター・町内会長・民生委員が参加して定期的開催され意見交換をしている。町内会長が参加することで地域の情報を得て活用している。参加者の提案で、地域の祭りに施設を会場として提供する事となった。	運営推進会議には家族代表として1名が参加するのみで、議事録も開示されていない。今後は議事録を開示して会議内容を家族に紹介することを期待します。また、家族会と同一開催することなどを検討して、運営推進会議に多くの家族が参加し地域住民と意見交換できることを期待します。
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	市町とは母体病院を中心とした関係性構築が強いことから、管理者は地域包括支援センター職員とは顔の見える関係が築けており、入居問合せだけでなく、困難事例相談なども井戸端的に行われることがある。	法人や事業所管理者は、市が推進している「いきいき百歳体操」や地域包括支援センターが行う初回アセスメントに協力している。そのことで地域包括支援センターとは緊密な関係が構築されていて、相談に応じる事もある。	

自己評価	外部評価	項目(2階ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束等適正化委員会を中心に、生活を拘束しないための適切な介助・援助が行えるようにセンサー等機器や環境整備に取り組んでいる。しかし転倒・転落事故予防との兼ね合いに苦慮している事例もある。	身体拘束をしないケアについて年2回、職員研修を行っている。「身体拘束等適正化委員会」は3か月毎に開催されている。そこでは転倒防止として活用しているセンサーに関して、行動抑制の観点から見直し、センサーの使用が減少した。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	年間研修として虐待防止研修も実施し、理解向上に努めている。また職員のストレスマネジメントとして、リーダーを中心に職員の要望や意見、気付きを業務改善に繋げられるように取り組んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	実際に成年後見制度を活用している入居者がおり、日々業務の中で意義や価値を実感している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居見学時より事業所の契約事項や方針を細やかにお伝えし、契約・入居時には再度お伝えしている。口頭や書面でいただいた本人・家族の希望を踏まえご理解をいただけるよう努めている。入居後も日々の変化をお伝えすることで、不安や疑問点を解消できるよう努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご家族が面会に来られた際に、近況報告やご意見やご要望を聴取し、日常生活に反映できるように努めている。また近況報告を記載した通信を毎月送付している。お勤め等で平日面会が難しいご家族のご意見・要望を受け付け易いよう、管理者は2・3回/月週末勤務している。	家族の意見を反映しようと、月に2-3回、管理者は週末出勤して家族と面談している。また、家族との信頼関係を強固にしようと利用者の報告を頻繁に行っている。家族会は年2回開催されており、事業所の運営状況について説明している。家族からの苦情には対策を実施し、家族に経過報告している。	

自己評価	外部評価	項目(2階ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	朝礼や月1回のミーティング実施、リーダーを中心に職員からの意見等を聴取し、管理者と協議し業務改善に繋げている。また必要に応じ個人面談にて意見聴取を行う。不定期であるが、アンケートも実施、今年度は自己点検チェックを実施し、結果を元に業務改善を検討中。	職員の意見は、朝礼・職員会議で聞き、年2回、職員全員が「振り返りシート」を提出し管理者と面談している。今年度はアンケートを実施し、職員の要望や仕事に対する姿勢・目標を把握することに努めた。職員の意見より入浴担当者をチェック表に記載することで入浴担当の偏りを是正した。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	半期毎に職員個人の目標設定と自己評価を実施。それを元に管理者やリーダーが個人面談を行い人事評価を実施している。また仕事の向上心と責任感育成に、日替わりでリーダーを決め行動している。職員のリフレッシュのため、年1回の最大5連休の長期休暇制度を実施。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	リーダーやリーダー候補には管理者研修や認知症実践研修、経験の浅い職員には認知症基礎研修など段階的に外部研修を進めている。またリーダーは法人内管理者研修に参加。新人教育は教育担当者を中心に教育を進めている。アセッサー養成し、キャリア段位制度活用を進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	昨年管理者が変更となり、同業者との関係性は現在構築中である。認知症介護リーダー研修等通じて、認知症介護コーディネーターとの交流から日頃の悩みなど相談できる環境は徐々にできてきている。今後はグループホーム全国大会など参加を検討中。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	施設内見学や個人面談、担当者会議などの話し合いの機会を大切に、本人の要望や不安を汲みとり、受け入れ態勢を整えている。入居初期より管理者だけでなく担当職員を決め、本人の気持ちに寄り添い、関係性構築に努めている。		

自己評価	外部評価	項目(2階ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	管理者だけでなく担当職員を決め、面会時にご本人の様子や状況をお伝えし、家族の想いや不安に寄り添いながら関係構築を図っている。また入居初期に面会が難しい家族には、週に1回を目安に電話にてコミュニケーションが図れるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	見学・入居相談から、当事業所内の体験ショートステイを利用されながら、在宅生活と施設入居の検討をされ、施設入居に結びついた例や、緊急的にショートステイを利用され、在宅生活継続に繋がった例がある。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	洗濯物たたみや食器拭きなどの家事を共に行う、一緒に作品を作成するなど生活を共に過ごしている。入居者の重介護化もあり、介護優先となることもあるが、常に相手を敬う気持ちを忘れず接することを重要視している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	原則として面会や外出に制限は設けず、気楽に本人と家族が触れ合え、関係性を保ち続けられるように配慮している。家族が遠方で面会が少ない状況であっても、毎月郵送する通信での近況報告や、何かあれば電話での報告・相談をするようにしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	知人や親戚の面会やその方々との外出、電話でのやり取りの支援など、本人が望まれる関係性になるべく維持できるように努めている。正月に親族が集まる自宅に外出できるよう支援させていただいた。	今まで利用していた美容院や通院していた医療機関を継続して利用できるように支援している。親族が集まる日に自宅で過ごせるように、理学療法士が自宅を訪問して介護方法を家族に指導して支援した事例がある。	

自己評価	外部評価	項 目(2階ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	席配置をはじめ、相性を考慮した生活様式の組み立てを行い、社会性を保った入居生活が継続できるように配慮している。 相性によっては他ユニットとの交流や、散歩・外出、アクティビティを実施している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	他施設へ転居の際には、次施設職員との面会を通し、本人・家族状況やケアの工夫等をお伝えし、スムーズに新しい環境に慣れていただけるよう努めている。お看取りをさせていただいた際には、ご家族からの手紙や直接来設いただくなどのやり取りがしばらく継続することあり。		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご本人が望む生活スタイルや希望を聴取するだけでなく、困難な場合には、ご家族から聴取した生活歴・趣味等や、以前の利用サービス関係者からの情報を元にカンファレンスにて話し合っ生活援助計画に反映できるように努めている。	入居時のアセスメント・家族が記載する「情報シート」・在宅ケアマネジャーからの情報を集めて利用者の思いや意向を把握している。また、日常生活の中での情報は連絡ノートやカンファレンスで共有してケアプランに反映している。囲碁が趣味の利用者にパソコンでの対局を実施した事例がある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居時にこれまでの生活歴・人生歴等についてシートに記載してもらい、それを元に本人・家族との対話の中で情報収集を行う。また以前の利用サービス関係者からや、在宅連携ノート等から情報を得てカンファレンスにて共有し生活援助計画作成に活用している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	日々の介護記録や、状況に応じてアセスメントツールを使用して状況の把握を行い、日々の申し送りやカンファレンスにてスタッフ間で共有している。健康面について、看護師と協働することでより正確に把握できている。介護記録の記載内容や方法については検討していきたい。		

自己評価	外部評価	項目(2階ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>介護職員だけでなく、看護師・療法士といった多職種でのカンファレンスを実施、各々の立場から本人のニーズを叶えるために話し合い、生活援助計画を作成している。ご家族にも事前に希望を聴取するように心がけている。家族参加でのカンファレンスができればと考えている。</p>	<p>利用者毎に担当者を決め、担当者はアセスメント・モニタリングを行い、カンファレンスで報告している。その後ケアプランを作成して計画作成者と協議してケアプランの見直しを行っている。カンファレンスには、介護職員・看護師・理学療法士の多職種が参加して協議している。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>計画にあるケアの実践内容を介護記録に記録し、それを元にカンファレンスにて評価や職員間で話し合いをもち見直しをかけている。介護記録の内容や方法について、計画と連動が不十分なケースもあり、改善を図ってきたい。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>例えば、同敷地内にあるデイサービスのレクリエーションに職員と一緒に参加し、趣味であるカラオケを楽しむ。歩行練習時に法人内のリハビリテーション室より装具を借りて練習をするなど、ニーズに応じて取り組めるよう努めている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>町内会行事への参加や、近隣の店舗の理解を得て、美容室に通われる利用者や、カフェに出かけることなどがある。今後さらに発展させていきたい。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>現在、母体病院医師がかかりつけ医であるが、元々のかかりつけ医にかかることも可能。必要に応じ皮膚科や歯科往診、整形外科、認知症専門医療機関への受診支援も行う。専門的医療が必要な場合は、母体病院を中心としたネットワークを活用、医療連携を図っている。</p>	<p>本人や家族の要望でかかりつけ医を決めている。今までの主治医をかかりつけ医とする利用者も母体病院に入院することで協力医をかかりつけ医とする利用者も多い。また看護師が配置され、利用者の健康管理を行っている。</p>	

自己評価	外部評価	項目(2階ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	所属の看護職員が、入居者の健康管理を協働しており、内服管理や、日常の身体面の変化・異変時の対応・助言を受けられる体制である。医療機関受診時の付き添いなど、介護職員では及びにくい対応ができ大変助かっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	多くの場合が、同法人の病院で入院加療を行う為、病院医療スタッフとの連携は強い。他医療機関との連携が必要な時にも、同病院の社会福祉士の協力が得られ円滑である。医療法人系列のグループホームとして、大きな強みに感じる。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居者の状態変化に合わせて、かかりつけ医からの説明に管理者が同席し、当施設で対応できる内容の確認や家族との理解を深め合えるよう努めている。また定期的に看取りアンケートをご家族に実施し、意向確認をしている。	法人は看取りを行う方針であり、入居時と定期的に「看取りアンケート」を実施している。重度化した際には、看護師・管理者が家族の要望を聞き、医師が状況を説明し今後の方針を決め支援している。今年度も数人の看取りがあり、看取りの事例をもとに「看取り研修」を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	AEDの設置とその取り扱い講習を始め、緊急時の対応についての研修は同法人病院の主権によるものが多く、より専門性の高い研修を得られている。緊急時の対応マニュアルや、夜間緊急対応当番、看護師夜間対応など夜間帯にも対応できる体制を整えている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	夜間想定した避難訓練を行ない、防災センターの防災宿泊研修に夜勤者全員の履修を目指し受講している。また水防法に基づいて洪水時の避難訓練を行っている。しかし地域住民との相互協力体制については検討の余地がある。災害時備蓄については、3日分の準備を整えている。	夜間勤務者は、防災センターでの「防災宿泊研修」を受講して訓練に参加している。年1回、夜間を想定した避難訓練を行い、デイサービスと一緒に洪水時の避難訓練を行っている。また職員連絡網を利用した伝達訓練も行い、災害時備蓄も完備している。	

自己評価	外部評価	項目(2階ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	共に暮らすことによる親密さは大切にしているが、同時に入居者様への敬いの気持ちを忘れないように、言葉遣いからスタッフ間で配慮している。またステレオタイプなケアサービスにならないように努めている。	利用者の人格を尊重し、「馴れ合いの対応」にならないように職員を指導し、「言葉の暴力」についても説明し職員の協力を得ている。申し送りの際には、利用者の個人情報が出ないように、利用者の実名を出さないよう配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	例えば更衣時の衣類の自己選択など、日常の中で自己選択できるように問いかけて接することに留意している。意思表示が困難な方には、イエス・ノーや傾きなどで答えられる形で問いかけを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	起床時間や食事時間、入浴頻度など個人のペースや生活リズムを尊重するように配慮している。しかし健康面や衛生面を考慮したり、集団生活としての一定のルールに則ることも必要と考えており、悩む事例もある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	近隣の馴染みの美容室に通われたり、洋服を買いに出かけたりするなど気軽に楽しめるように心がけている。起床時にはまず身だしなみを整えることから支援させていただき、衣類も本人の好みで選んでいただくようにしています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	重介護化が進む中で炊事を共有することが難しくなり、チルド食や弁当が中心となっている。しかし味噌汁の具材選びや下ごしらえ、盛り付け、食器洗いなどは入居者様と協働して取り組むようにしている。また、月に1回程度は入居者様と一緒に自炊を行ったりしている。	朝食は、専任担当者が調理して提供しているが、昼食・夕食は外部事業所による食事を利用している。月に2-3回、お寿司や焼きそばを利用者と一緒に作り、レクリエーション担当者が「おでんパーティー」やおやつ作りを企画し実施している。お好み焼きの出前を利用したり外食に出かけることもある。	

自己評価	外部評価	項 目(2階ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>健康管理表にて食事量・飲水量を把握・管理している。摂食能力に合わせた食事形態や食器の工夫を行っている。水分摂取量についても、タイミングや容器の形状を検討しながら確保できるように努めている。また2週間に1回は必ず体重測定を行い、体重増減をチェックしている。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>口腔ケアチェック表を掲示し、毎食後の口腔ケアの励行と適切な援助を行っている。各個人の口腔ケアに見合った形状の歯ブラシやスポンジブラシなど準備をし対応している。また希望者には歯科往診での口腔ケアを受けてもらっている。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>排泄チェック表にて個人の排泄タイミングを把握し、日中は出来る限りトイレで排泄が行えるように努めている。介助量が多大であっても、日中のトイレ誘導を行う反面、双方の負担を軽減する方法に悩む事例もある。</p>	<p>利用者の排泄パターンを把握してトイレ誘導を行い、昼間は、出来るだけトイレに座って排泄するように支援している。夜間のみリハビリパンツを使用する利用者も多いが、職員が声掛けをしてトイレに誘導する利用者もいる。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>日頃より便秘予防にヨーグルトなどの乳製品や繊維質な食品を摂取するように心がけたり、水分摂取を促すようにしている。またラジオ体操や散歩等、運動を促している。排便コントロールが必要な場合には、医師・看護師と連携して必要最低限の薬剤使用、処置を行っている。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>時間帯や人数によって叶えられない部分もあるが、個人の希望に沿えるように時間調整などを行っている。浴槽リフトやシャワーキャリーを導入して対応しているが、より重度化が進みシャワー浴のみの対応となっている方もおられ、課題である。</p>	<p>週に2回程度入浴するようにし、利用者の状況に応じてシャワーキャリー等の福祉用具を利用し入浴を実施している。要望があれば、同性介助を行っている。</p>	

自己評価	外部評価	項 目(2階ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している。	個人の生活サイクルに応じて、ある程度自由な生活援助を行っている。また夜間の睡眠状態や下肢の浮腫が強い方など状況に応じて日中の休息時間を設けたり、夜間安眠できるように外気浴を行うなど心掛けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬の情報をファイルにて一括管理し、各フロアに配置し、すぐに確認できる体制にしている。また内服忘れや誤薬を防止するために、職員2人で配薬チェックを行っている。また体調変化による服用のコントロールなどは看護師と相談し、必要に応じて医師と相談するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	能力に応じて、洗濯や食事など家事の役割をもってもらえるよう努めている。また花への水やりや歌、作品づくりなどの趣味に応じたアクティビティを取り入れながら、気分転換に努めている。毎日全員を支援することは難しいが、援助計画に沿った支援を行うように努めている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	日々の散歩や近所のお地藏さん参りなどの外出は日常的に取り組んでいる。それ以外に行事担当者が、水族館や美術館、ドリミネーション、大菊花展などなど、入居者の希望や季節を感じてもらえるように外出行事を企画している。またご家族とも気軽に外出していただいている。	日常的に散歩に出かけるようにし、数人単位で近くの店に買い物に出かけたリカフェに行くこともある。行事担当者がプランを立て、水族館や美術館、時には利用者の要望でマジックショーに出かけることもある。	外出行事は多く企画されて実施されているが、今後は家族も一緒に出かける外出行事を期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	ご家族様に理解を頂きながら、入居者本人管理で現金を持たれている方もおられ、散歩中の買い物や、外食時の支払いをご自身で行われている。		

自己評価	外部評価	項 目(2階ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	知人や家族に電話をかけられる時に支援をしたり、かかってきた電話の取次ぎ支援をしている。希望があれば年賀状や郵便のやり取りの支援も行っている。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	各個人の認知症状や好みによって合う環境は異なるが、毎日掃除を心掛けて清潔感を保つようにしている。また季節を感じれるような飾りや、くつろげるようにソファを置くなど生活感を感じれるようにしている。夜間は廊下の照明を調整し、転倒予防に努めている。	掃除専任者によるクーラーのフィルター掃除・加湿器の清掃を定期的を実施し、手すりなどのアルコール消毒など、施設内を清潔に保つよう取り組んでいる。また夜間は、利用者が転倒しないように廊下が眩しくないように照明を調整している。毎日のトイレ掃除は委託業者が担当している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	入居者同士の関係性を重視して、生活環境を整えている。食事用のテーブルとソファを設置しており、利用者同士で状況に応じて移動されている。1人で過ごせる共用空間は少ないため、自身の居室で過ごされることもある。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ご家族にも協力してもらいながら、なるべくご自宅で使用していた馴染みのある物や写真などを居室に配置して、落ち着ける場として環境を整えている。部屋に仏壇を置かれている方や、水槽で金魚を飼われている方もおられた。	居室には、洋服タンスとタンスが用意されているが、それ以外に自宅で使用していた鏡台を持ち込む利用者も多い。床にマットを敷いたり、絵が好きな利用者は壁に絵を飾るなど居心地よく過ごせるようにそれぞれ工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	共用部分では、迷われないようトイレ場所表示や、居室扉に表札表記する等している。また動線上に不要な物品は置かないなど配慮している。しかし表記については手作りであり今後整備を検討している。各居室は、個人の動作能力に応じて安全な環境設定に心掛けている。		

V アウトカム項目(2階ユニット) ← 左記()内へユニット名を記入願います

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

自己評価	外部評価	項目(3階ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	毎朝の朝礼にて理念の唱和を入居者とともにやっている。また全体ミーティングでの事業計画振り返りや計画説明時に理念を交えた話をしている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	町内会行事への参加だけでなく、事業所の敷地を利用して町内の祭りの開催や、神輿の休憩所として利用していただいている。また近隣中学の職場体験実習の受け入れを毎年実施している。しかし入居者が日常的に近隣住民と交流の機会をもつことは少なく課題である。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	管理者が理学療法士であり、地域包括支援センターと協力して介護予防拠点整備促進事業に参加している。その中で、住民に向け認知症について話をする機会をもっている。認知症アドバイザーとしての活動希望はあるが、広島市のアドバイザー養成講座開催がない状態である。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営状況の報告、行事等の取り組み紹介を中心に、出席者から諸々の意見聴取を行っている。 町内会長にも出席していただくことで、災害時対応についての検討や、町内会行事への参加や協力に繋がっている。		
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	市町とは母体病院を中心とした関係性構築が強いことから、管理者は地域包括支援センター職員とは顔の見える関係が築けており、入居問合せだけでなく、困難事例相談なども井戸端的に行われることがある。		

自己評価	外部評価	項目(3階ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束等適正化委員会を中心に、生活を拘束しないための適切な介助・援助が行えるようにセンサー等機器や環境整備に取り組んでいる。家族の希望にて臥床時に柵を設置している事例もあるが、センサーを活用し、行動抑制しないよう努めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	年間研修として虐待防止研修も実施し、理解向上に努めている。また職員のストレスマネジメントとして、リーダーを中心に職員の要望や意見、気づきを業務改善に繋げられるように取り組んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	実際に成年後見制度を活用している入居者がおり、日々業務の中で意義や価値を実感している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居見学時より事業所の契約事項や方針を細やかに伝えること、また契約時にも再度お伝えすることでよりご理解をいただけるように努めている。入居後も日々の変化などお伝えすることで、不安や疑問点を解消できるよう努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご家族が面会に来られた際に、近況報告やご意見やご要望を聴取し、日常生活に反映できるように努めている。また近況報告を記載した通信を毎月送付している。お勤め等で平日面会が難しいご家族のご意見・要望を受け付け易いよう、管理者は2・3回/月週末勤務している。		

自己評価	外部評価	項目(3階ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	朝礼や月1回のミーティング実施、リーダーを中心に職員からの意見を聴取し、管理者と協議し業務改善に繋げている。また必要に応じ個人面談にて意見聴取を行う。不定期であるが、アンケートも実施、今年度は自己点検チェックを実施し、結果を元に業務改善を検討中。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	半期毎に職員個人の目標設定と自己評価を実施。それを元に管理者やリーダーが個人面談を行い人事評価を実施している。また仕事の向上心と責任感育成に、日替わりでリーダーを決め行動している。職員のリフレッシュのため、年1回の最大5連休の長期休暇制度を実施。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	リーダーやリーダー候補には管理者研修や認知症実践研修、経験の浅い職員には認知症基礎研修など段階的に外部研修を進めている。またリーダーは法人内管理者研修に参加。新人教育は教育担当者を中心に教育を進めている。アセッサー養成し、キャリア段位制度活用を進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	昨年管理者が変更となり、同業者との関係性は現在構築中である。認知症介護リーダー研修等通じて、認知症介護コーディネーターとの交流から日頃の悩みなど相談できる環境は徐々にできてきている。今後はグループホーム全国大会など参加を検討中。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	施設内見学や個人面談、担当者会議などの話し合いの機会を大切に、本人の要望や不安を汲みとり、受け入れ態勢を整えている。入居初期より管理者だけでなく担当職員を決め、本人の気持ちに寄り添い、関係性構築に努めている。		

自己評価	外部評価	項目(3階ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	管理者だけでなく担当職員を決め、面会時にご本人の様子や状況をお伝えし、家族の想いや不安に寄り添いながら関係構築を図っている。また入居初期に面会が難しい家族には、週に1回を目安に電話にてコミュニケーションが図れるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	見学・入居相談から、当事業所内の体験ショートステイを利用されながら、在宅生活と施設入居の検討をされ、施設入居に結びついた例や、緊急的にショートステイを利用され、在宅生活継続に繋がった例がある。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	例えば味噌汁の具材選びや下ごしらえ、食器洗いなどを一緒に行いながら、入居者の経験を教えていただくこともある。また常に相手を敬う気持ちを忘れず接することを重要視している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	原則として面会や外出に制限は設けず、気楽に本人と家族が触れ合え、関係性を保ち続けられるように配慮している。家族が遠方で面会が少ない状況であっても、毎月郵送する通信での近況報告や、何かあれば電話での報告・相談をするようにしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	知人や親戚の面会やその方々との外出、電話でのやり取りの支援など、本人が望まれる関係性になるべく維持できるように努めている。外出時や散歩の際になじみの店に行ったりすることもある。		

自己評価	外部評価	項 目(3階ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	席配置をはじめ、相性を考慮した生活様式の組み立てを行い、社会性を保った入居生活が継続できるように配慮している。 相性によっては他ユニットとの交流や、散歩・外出、アクティビティを実施している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	他施設へ転居の際には、次施設職員との面会を通し、本人・家族状況やケアの工夫等をお伝えし、スムーズに新しい環境に慣れていただけるよう努めている。お看取りをさせていただいた際には、ご家族からの手紙や直接来いただくなどのやり取りがしばらく継続することあり。		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご本人が望む生活スタイルや希望を聴取するだけでなく、困難な場合には、ご家族から聴取した生活歴や、以前の利用サービス関係者からの情報を元にカンファレンスにて話し合っ生活援助計画に反映できるように努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居時にこれまでの生活歴・人生歴等についてシートに記載してもらい、それを元に本人・家族との対話の中で情報収集を行う。また以前の利用サービス関係者からや、在宅連携ノート等から情報を得てカンファレンスにて共有し生活援助計画作成に活用している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	日々の介護記録や、状況に応じてアセスメントツールを使用して状況の把握を行い、日々の申し送りやカンファレンスにてスタッフ間で共有している。健康面について、看護師と協働することでより正確に把握できている。介護記録の記載内容や方法については検討していきたい。		

自己評価	外部評価	項目(3階ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>介護職員だけでなく、看護師・療法士といった多職種でのカンファレンスを実施、各々の立場から本人のニーズを叶えるために話し合い、生活援助計画を作成している。ご家族にも事前に希望を聴取するように心がけている。家族参加でのカンファレンスができればと考えている。</p>		
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>計画にあるケアの実践内容を介護記録に記録し、それを元にカンファレンスにて評価や職員間で話し合いをもち見直しをかけている。介護記録の内容や方法について、計画と連動が不十分なケースもあり、改善を図ってきたい。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>例えば、同敷地内にあるデイサービスのレクリエーションに職員と一緒に参加し、趣味であるカラオケを楽しむ。下肢の筋力増強として、デイサービスの運動機器を活用させていただいているなど、ニーズに応じて取り組めるよう努めている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>町内会行事への参加や、近隣の店舗の理解を得て、美容室に通われる利用者や、カフェに出かけることなどがある。今後さらに発展させていきたい。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>現在、母体病院医師がかかりつけ医であるが、元々のかかりつけ医にかかることも可能。必要に応じ皮膚科や歯科往診、整形外科、認知症専門医療機関への受診支援も行う。専門的医療が必要な場合は、母体病院を中心としたネットワークを活用、医療連携を図っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目(3階ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	所属の看護職員が、入居者の健康管理を協働しており、内服管理や、日常の身体面の変化・異変時の対応・助言を受けられる体制である。医療機関受診時の付き添いなど、介護職員では及びにくい対応ができ大変助かっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	多くの場合が、同法人の病院で入院加療を行う為、病院医療スタッフとの連携は強い。他医療機関との連携が必要な時にも、同病院の社会福祉士の協力が得られ円滑である。医療法人系列のグループホームとして、大きな強みに感じる。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行えることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居者の状態変化に合わせて、かかりつけ医からの説明に管理者が同席し、当施設で対応できる内容の確認や家族との理解を深め合えるよう努めている。また定期的に看取りアンケートをご家族に実施し、意向確認をしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	AEDの設置とその取り扱い講習を始め、緊急時の対応についての研修は同法人病院の主催によるものが多く、より専門性の高い研修を得られている。緊急時の対応マニュアルや、夜間緊急対応当番、看護師夜間対応など夜間帯にも対応できる体制を整えている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	夜間想定した避難訓練を行ない、防災センターの防災宿泊研修に夜勤者全員の履修を目指し受講している。また水防法に基づいて洪水時の避難訓練を行っている。しかし地域住民との相互協力体制については検討の余地がある。災害時備蓄については、3日分の準備を整えている。		

自己評価	外部評価	項目(3階ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	共に暮らすことによる親密さは大切にしているが、同時に入居者様への敬いの気持ちを忘れないように、言葉遣いからスタッフ間で配慮している。またステレオタイプなケアサービスにならないように努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	例えば更衣時の衣類の自己選択など、日常の中で自己選択できるように問いかけて接することに留意している。意思表示が困難な方には、イエス・ノーや頷きなどで答えられる形で問いかけを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	起床時間や食事時間、入浴頻度など個人のペースや生活リズムを尊重するように配慮している。しかし健康面や衛生面を考慮したり、集団生活としての一定のルールに則ることも必要と考えており、悩む事例もある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	近隣の馴染みの美容室に通われたり、洋服を買いに出かけたりするなど気軽に楽しめるように心がけている。起床時にはまず身だしなみを整えることから支援させていただき、衣類も本人の好みで選んでいただくようにしています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	重介護化が進む中で炊事を共有することが難しくなり、チルド食や弁当が中心となっている。しかし味噌汁の具材選びや下ごしらえ、盛り付け、食器洗いなどは入居者様と協働して取り組めるようにしている。また、月に1回程度は入居者様と一緒に自炊を行ったりしている。		

自己評価	外部評価	項 目(3階ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	入居者様個々人の摂食能力に合わせた食事形態や食器の工夫を行っている。水分摂取量についても、タイミングや容器の形状を検討しながら確保できるように努めている。 また2週間に1回は必ず体重測定を行い、体重増減をチェックしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	口腔ケアチェック表を掲示し、毎食後の口腔ケアの励行と適切な援助を行っている。各個人の口腔ケアに見合った形状の歯ブラシやスポンジブラシなど準備をし対応している。 また希望者には歯科往診での口腔ケアを受けてもらっている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄チェック表にて個人の排泄タイミングを把握し、日中は出来る限りトイレで排泄が行えるように努めている。介助量が多大であっても、日中のトイレ誘導を行う反面、双方の負担を軽減する方法に悩む事例もある。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	日頃より便秘予防にヨーグルトなどの乳製品や繊維質な食品を摂取するように心がけたり、水分摂取を促すようにしている。またラジオ体操や散歩等、運動を促している。排便コントロールが必要な場合には、医師・看護師と連携して必要最低限の薬剤使用、処置を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。	時間帯や人数によって叶えられない部分もあるが、個人の希望に沿えるように時間調整などを行っている。 浴槽リフトやシャワーキャリーを導入して対応しているが、より重度化が進みシャワー浴のみの対応となっている方もおられ、課題である。		

自己評価	外部評価	項 目(3階ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している。	個人の生活サイクルに応じて、ある程度自由な生活援助を行っている。また夜間の睡眠状態や下肢の浮腫が強い方など状況に応じて日中の休息時間を設けたり、夜間安眠できるように外気浴を行うなど心掛けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬の情報をファイルにて一括管理し、各フロアに配置し、すぐに確認できる体制にしている。また内服忘れや誤薬を防止するために、職員2人で配薬チェックを行っている。また体調変化による服用のコントロールなどは看護師と相談し、必要に応じて医師と相談するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	個人の能力に応じて、洗濯や食事など家事の役割をもってもらえるよう努めている。またゲームや、作品づくりなどの趣味に応じたアクティビティ、散歩を取り入れ気分転換に努めている。毎日全員を支援することは難しいが、援助計画に沿った支援を行うように努めている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	日々の散歩や近所のお地藏さん参りなどの外出は日常的に取り組んでいる。それ以外に行事担当者が、水族館や美術館、ドリミネーション、大菊花展などなど、入居者の希望や季節を感じてもらえるように外出行事を企画している。またご家族とも気軽に外出していただいている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	ご家族様に理解を頂きながら、入居者本人管理で現金を持たれている方もおられ、散歩中の買い物や、外食時の支払いをご自身で行われています。		

自己評価	外部評価	項 目(3階ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	知人や家族に電話をかけられる際の取次ぎ支援をしている。希望あれば年賀状、郵便のやり取り支援も行う。携帯電話所持の入居者が増え、操作方法や充電等の支援を行っているが、時間関係なしの連絡、知らない番号にかけてしまわれる事もあり、携帯電話使用について考える点が増えている。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	各個人の認知症状や好みによって合う環境は異なるが、毎日掃除を心掛けて清潔感を保つようにしている。また季節を感じれるような飾りや、くつろげるようにソファを置くなど生活感を感じれるようにしている。夜間は廊下の照明を調整し、転倒予防に努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	入居者同士の関係性を重視して、生活環境を整えている。食事用のテーブルとソファを設置しており、利用者同士で状況に応じて移動されている。1人で過ごせる共用空間は少ないため、自身の居室で過ごされることもある。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ご家族にも協力してもらいながら、なるべくご自宅で使用していた馴染みのある物や写真などを居室に配置して、落ち着ける場として環境を整えている。ご自身で描いた絵を飾られたり、愛用している椅子を持って来られている方もおられる。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	共用部分では、迷われないようトイレ場所表示や、居室扉に表札表記する等している。また動線上に不要な物品は置かないなど配慮している。しかし表記については手作りであり今後整備を検討している。各居室は、個人の動作能力に応じて安全な環境設定に心掛けている。		

V アウトカム項目(3階ユニット) ← 左記()内へユニット名を記入願います

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 あんしんホーム

作成日 令和2年2月25日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議の議事録を家族へ開示できていない。家族代表のみの参加となっている。	ご家族の運営推進会議への参加や議事録を開示し、意見交換をもとにサービス向上に繋げる。	・ご家族への運営推進会議議事録の郵送。 ・年1回程度、家族会に合わせた運営推進会議の開催。	1年間
2	49	家族参加の外出行事が少ない。	家族参加をすすめ、入居者・家族間の交流を充実する。	家族に向け、事前に外出行事の案内を行い、参加協力を依頼する。	1年間
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。